

大学のこれまでとこれから ～改革の30年がもたらした功罪

筑波大学 名誉教授

山本眞一

1949年生れ。大学卒業後20年間の文部省勤務を経て、1992年筑波大学助教授(教育学系)、96～2006年同教授・大学研究センター長。専門は高等教育システム論。博士(教育学)。筑波大学・広島大学・桜美林大学名誉教授。



大学に関わるわれわれにとって、この30年はまさに「大学改革」の連続でした。その間、国立大学の法人化、認証評価の制度化、学長のリーダーシップ確立や教授会機能の縮小、研究費や人員の競争的配分への傾斜、内閣府や文科省の存在感の増大など、われわれが勤めていた大学は、30年前とは大幅に異なる状況に置かれています。

これは一方で大学の教育・研究への社会からの期待の反映であると同時に、学問の自由、大学の自主自律など、大学や研究者にとっての基本原則との関わりを考えねばならない問題でもあります。科学技術・イノベーション、AI時代の教育・研究、18歳人口減への対処など諸課題が山積する中で、これからの大学の在り方を考えてみましょう。

日時:2024年7月19日(金)13時30分～15時30分

会場:筑波大学大学会館同窓交流室/オンライン(Zoom)

お申し込みは <https://ws.formzu.net/dist/S3525699/>

主催:筑波大学名誉教授の会 共催:茗溪会、筑波大学



つくば談話会は、筑波大学名誉教授の会のメンバーが自身の活動などについてお話しし、気軽な雰囲気の中で語り合うことを目的としています。

どなたも参加できます。お気軽にご参加下さい。

筑波大学名誉教授の会

〒305-8577 つくば市天王台1-1-1筑波大学大学会館内 電話:029-853-7955

お問い合わせ先:第15回つくば談話会担当 Mail: tsukuba.danwakai@gmail.com